

STUDENT EXCHANGE NEWS



近江兄弟社中学・高等学校 国際交流委員会・留学生センターニュース

ISSUED BY THE INTERNATIONAL EXCHANGE COMMITTEE, OMI BROTHERHOOD SR. & JR. HIGH SCHOOLS

姉妹校との交流 マレーシアからホームステイ



11月18日(金)～21日(月)、36名(男子15名、女子21名)の高校生が、引率の先生と共に、日本旅行をする中で、本校を訪問し交流しました。

初日の午後学園に到着し、歓迎会をしました。海外研修旅行でマレーシアを訪れた生徒たちを中心に、ホームステイの受入をしました。土日はホストファミリーと過ごし、21日(月)の朝、お別れをしました。

ホストファミリーの感想文を紹介します。



貴重な体験

G28 松岡 菜々子

私がマレーシアに行った時、たくさんのご飯を用意してくれたり、色々な所に連れて行ってくれたり驚きと嬉しさの毎日でした。だから日本に来た時にそう感じて欲しいと思いどんなおもてなしをすれば良いのかや自分がしてもらって嬉しいことを考えながら計画してきました。

1日目はお互い緊張してしまい、あまり話せませんでした。しかし、夜ご飯の時たこ焼きを一緒に作ろうと言うと、とても興味津々にやり方を聞いてきてくれたり、笑顔で楽しんでくれました。私が土曜日に着る服を決めていると、ホストの子が着る服を

見せてくれました。同じような服を持っていたので見せると、「一緒に着よう」と言ってくれたので土曜日は同じような服を着ることに決め、明日を楽しみに待ちました。

2日目は友達と京都に行きました。ホストの子が着物を着たいと言っていたので一緒に着ました。大勢の人がいる中、慣れない着物で歩くのはしんどそうでしたが日本の文化や体験を喜んでくれていました。私は、2日間だけの受け入れだったので、この日の夜が最後でした。悲しさや寂しさがあったので、私たちは寝たくないと言い、夜中3時まで話したり、写真を撮ったりしました。

3日目は彦根と八幡に行きました。彦根では、彦根城を見たり街中を歩いたり、昔ながらの風景を楽しんでもらいました。マレーシアでは体験できない紅葉を見てもらえたので良かったです。八幡では、

買い物をしたりプリクラを撮ったりとずっと笑顔でした。この日が最後の交流だと思うと涙が出そうになることもありましたが楽しい一日を過ごせました。

お別れの日、みんなと写真を撮ったり話しているとずっと一緒に居たいという思いが溢れ涙が止まりませんでした。マレーシアの人たちもたくさん泣いてくれて、日本と一緒に楽しんでくれたのだろうと思ひ本当に嬉しかったです。私のホストの Lauren に出会えたこと、Lauren の家族に出会えたこと、これらは全て奇跡であり、自分の宝物です。



今回の経験は今後の人生の選択にすごく影響を与えるものになりました。英語を専門的に学びたい、多くの国の人と繋がりたい、世界で起きていることを知り自分ができることをしたいと思うようになりました。自分はまだまだ何も知らないことがわかりもっと勉強しようと思いました。そしてまだどこかでみんなに会えたらいいなと思いました。

初めてのホストファミリー体験

P22 森田 弘之介

外国人が家に来て泊まるのは初めてで、マレーシアには風呂がありませんでした。なので、ホストの子が風呂に入るか心配でしたが、少し教えただけで、しっかりと湯に浸かってくれたので、ホッとしました。自分がマレーシアへ行った時もそうでしたが、彼らも日本に来た時は分からないことだらけで彼ら自身も心配していたと思いますが、全くそんなことは無く、むしろワクワクしている感じでした。また、一度出会っているのでも、安心感があつたのかもしれない。

1 日目、楽しみにしていた受け入れが始まり、まずは野洲に本店がある来来亭に行き夕食を食べてそのまま就寝しました。

2 日目、少し早めに起きて京都へ行きました。いつもは病院へ行く時以外、あまり行かないところですが、観光で行ったのでとても楽しみでした。京都についてまず思ったのが、外国人観光客が多い事です。日本の外国人観光客上位ランキングに来ている

のはいつも京都なので、なんとなく予想はしてましたが、ここまで多いと清水寺にたどり着けるか心配でした。しかし、いざ清水寺へ行ってみると、意外と人が少なくゆっくり見ることができました。また、ホストの子も京都のお土産も沢山買ったみたいだったので、彼らも満喫できて嬉しかったです。



最終日の朝が来ました。この日、あまり予定を決めていませんでしたが、とりあえず彦根城に行こうということで、彦根へ向かいました。普段行くことのない彦根ですが、今回は外国人と一緒になので、せっかく日本に来たのだから見てもらおうと思ひ、行くことに決めました。彦根に着いたのは11時30分頃で昼ご飯を食べようと思ひましたが、お店がなくて困りました。仕方なく、先に彦根城を見にいきました。ホストの子からすると、城を見るのは初めてだったようで、とても感動したそうです。それを聞いてとても安心しました。また、お抹茶を飲む体験も出来たので、しっかりと日本の文化を伝えて触れてもらえたと思います。

普段から日本人としか話したり遊んだりしないので、正直心配な事ばかりでしたが思った以上に心配しなくてもいいみたいでした。これから外国人と話す機会をできれば増やしたいと思います。

ただ今留学中

アメリカの選挙を考える

111 岩田 圭果

姉妹校留学

留学先：Grand Rapids Christian High School (アメリカ)

期間：2016/8/5 ~ 2017/3/25

こちらに来て4か月が経ちました。北海道と同じ緯度であるこちらの州では、まだ1回しか雪が降っていないのでそこまで寒くありません。とてもラッキーだと思っています。

11月8日に大統領選挙があり、私も一緒に投票

に連れて行ってもらいました。こちらでは早朝から投票をやっている、朝7時前から並んで約1時間半待ちました。当然学校にも遅れてしまったのですが、選挙についてはこちらでも仕方がないとされるようです。トランプ氏が勝ったことに対してトランプ氏を応援していた人もびっくりしていたようですが、ヒラリー氏を推していたホストブラザーは動揺を隠せませんでした。翌朝、アメリカ史の授業では80分間まるまる大統領選挙について話し合いました。いろいろな人に話を聞いているとトランプ氏を応援している人も多く、いろんな視点からアメリカの選挙を考えることができました。



ホストブラザーとポッキーを食べる

もう一つ、大きな出来事がありました。ホストファミリーのお父さんが11月中旬に亡くなられて、みなでお葬式をすることになりました。私が最後に葬式に行ったのは10年以上も前なので、はっきりとどこが違うかとはわかりませんがとにかく明るかったです。みんなで明るい歌を歌って、おじいさんの笑い話などをみんなで思い出したりなど、日本のお葬式のようにお別れの言葉を言うなどは全く違うということだけはわかりました。服装も基本的に自由で、ジープンで来ている人がいました。ホストマザーが、"It was good that he was created by God. (彼は神によって作られてよかった。)"などと言っていたり、お葬式を教会で行うなど宗教的な部分も大きく関わっていて、滅多に体験できない貴重なことをさせてもらいました。

日々のことについては、授業にも慣れてきてやっと成績も上がってきたという感じです。

みんな冬休み前の大きなテストに向けてレポートやスピーチなどを頑張っています。私もスピーチでは、Notable Person、つまりそこまで有名ではないけれどもとてもすごいと思う人について調べ、スピーチするという大きなプロジェクトがあります。そこで私は、今年の2月に「立石杯」という英語暗唱大会でスピーチした人を思い出して、その中の人について調べることにしました。今でも内容を覚えていたので、プロジェクトがとても早く進みました。まさかこんなところで中学の時に頑張ったことが役立つとは思ってなくて、そしてその人についてみんなに

話すことがとても楽しみです。さらに、その経験をさせてもらっていたからか人前でスピーチをすることに対してあまり緊張せず自分のペースで進めることができています。

今までは授業の中で先生の話聞くことが精一杯で、授業が受け身になっていましたが、最近は隣の人に話したり先生に質問したりできるようになりました。まだテストで語句を覚えることは簡単ではないですが、少しずつコツをつかめていると思います。

友達についても変化がありました。今までは留学生の友達とほとんど休み時間やお昼休みを過ごしていました。しかし、私はもっとアメリカ人と仲良くなりたくて、でもなかなか話しかけられなくて自己嫌悪の繰り返しでした。

でも、授業がわかって少しずつ積極的に参加できるようになってから、自分に余裕が出てきて色々な人に"Hi! How're you doing?"などと話しかけられるようになりました。見かけが怖くて話しかけられなかった人も、一回話すと人が変わるように明るく接してくれたりしてとても驚いています。

友達の家に行ったりすることも増えました。クロスカントリーという部活で仲良くなった友達はお母さんが日本人で日本食を振舞ってくれました。こちらでは、どちらかというショッピングに行き遊ぶというよりは友達の家に行き一緒に夜ご飯を食べたり映画を見たりすることの方が多く、また日本の友達の付き合い方とは違うと思いました。

ホストファミリーについては自分ひとりでグルグルと考えてしまうことが多くて、やっぱり色々自分のやりたいことを言うには勇気がいります。どうしても友達のホストファミリーと比べてしまったりして自分でもどうしたらいいかわからない日々が続きますが、毎日やるべきことを少しずつ進めながらトライしていこうと思います。(2016/12/05 受信)

留学の折り返し地点

I11 伏木彩澄菜

姉妹校中期留学

留学先：Citipointe Christian College (オーストラリア)

期間：2016/7/16 ~ 2017/6/24

一年間の留学で楽しみにしていたことの一つに、世界的なお祭りを海外で過ごすということがあります。私はハロウィンを楽しみに10月を過ごしていました。そして、31日当日、オーストラリアのハロウィンは特に何もなく終わりました。学校ではクラスの中国人や韓国人が"Trick or Treat"と連発してうるさいと叱られるだけでしたし、私のホストファミリーは全くハロウィンに関心を持たない家庭でした。夕食を食べているときにドアを叩く音がしましたが、居留守をし、ハロウィンをすごく批判してい

ました。変な人が変な服装でふざけているだけと言っていました。だから、東京でたくさんの人が仮装して出かけることなど絶対言えないなっと思いました。もうすぐクリスマスなのでクリスマスを楽しみたいと思います。



今月はいろいろと忙しくあっという間に1か月が終わり、振り返ると日本づくしだったと思います。まず、この学期が8週間と短いので、月の初めにテストがあり先週もまたテストがありました。そして、テストとテストの間にI21の先輩方が研修旅行で来ました。久しぶりに会ったので嬉しかったし、ほっとしました。私から見たら研修旅行の下見みたいでおもしろかったし、来年自分がここに帰ってくるのが楽しみです。あと半年で留学が終わると思うととても早く感じ、自分の英語が上達したか不安にもなります。もう一つは友達と週末に出かけたことです。そこでDAISOをみつけました。広い敷地内にすごい人数の人がいてオーストラリアでもDAISOは人気です。ほぼすべてが2.80ドルで少し高いですが、日本の物が買えるのでとても便利です。商品を見ていて、やっぱり日本はさすがだと感じました。

オーストラリアに来てもうすぐ半年になりますが、まだまだ知らないこともあるし、新しいことを発見することはとてもおもしろいです。同時に、日本のことも学ぶことがあるし、日本のことについて聞かれてもわからないことがたくさんあるので、日本を再確認する機会にもなっています。

今が留学の折り返し地点でスタートと同様に初心を思い出してもっとが英語が伸びるよう頑張っていきます。(2016/11/30 受信)

「韓国語、上手だね」

I21 小田 桃加
姉妹校中期留学

留学先：昌原南中學高等学校（韓国）

期間：2016/10/5 ~ 2016/12/28

11月11日、12日の2日間、昌原南高校に近江兄弟社高校の修学旅行生が来ました。久しぶりに日本の友達と話すので、日本語と韓国語が「ごちゃごち

や」になりながらおしゃべりをしました。最近気づいたのですが、独り言も、時々韓国語になっていて、それほど韓国にどっぷり浸かっていることがとても嬉しいです。

日本の友達と韓国の友達の間には挟まり、私は通訳士のような仕事をしていました。テレビのなかで通訳している方は、あんなにも簡単そうに通訳しているのに、実際に通訳を使用すると、日本語がパッと出てこなかったり、韓国語にしかない表現であったりと、様々な壁がありました。通訳をするということは、頭の回転がよくなければならないと、しっかりと体験できたと思います。これもとてもいい経験でした。



韓国に来て2か月が経ちました。最初のうちは、お世辞の「韓国語、上手だね」をたくさん聞いていたのですが、最近になって、またクラスメイトから「韓国語、上手になったね!」と言われるようになりました。前と比べて発音が良くなり、聞き取りも、速いスピードで聞き取れるようになったようです。上手になったと言われる、一番の理由は、方言を使うようになったことです。

昌原の方言は、関西弁のように、標準語と違ったアクセントをたかったり、「ほかす」と「捨てる」のように、昌原では眠いことを「잠와 (ジャムア)」と言いますが、標準語は「졸려 (チョルリア)」と言います。このような、表現の違いもあります。(これを書いている時、逆に標準語が出てきませんでした。)

知らぬ間に方言を使っていて、簡単な言葉を話すとき、友達からは、「急に方言、しゃべりだした!!」と笑われます。そう言われることも、自分が韓国語を上手になった証拠だと思うので嬉しいです。

この留学もあと1か月になりました。毎日が楽しく、新鮮なもので、時間の流れがとても速いです。最後の1か月、一日一日を大切に過ごしたいと思います。(2016/11/29 受信)

